

全学共通科目

カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために
◎ 特に重要な項目 ○ 重要な項目 △ 履修することが望ましい項目

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
大学を知る	(新入生オリエンテーション2時間+学科会2時間+理念(学長・副学長・同窓会)4～6時間+マナー8時間)	新入生が甲南女子大学の理念、歴史を学び、また卒業生たちが本学で何を学び現在どう社会で活躍しているかを知ることにより、大学とはどういうところか、大学で何が出来るかを知るとともに今後の大学生活の過ごし方を自分自身で考えることを目的とする。	2	1	前期	1	なし	◎	○	○	
アカデミックスキルズ	授業を受けるのに必要なレポートの書き方・ノートの取り方	大学生活においても、社会に出ても問われるのはコミュニケーション力である。本講義では、わかりやすく伝える、聞き取る、話し合うという行為を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。	2	1	前・後期	1	なし	◎	○	○	○
グループ討論トレーニング	グループディスカッションとディベート	この授業では、「話す」「聞く」という能力の向上を目指す。相手に分かりやすく、説得力をもって伝えるにはどうしたらよいか、またどうしたら相手の話を理解しながら聞くことができるのかを、プレゼンテーションとディベートを通じて学ぶ。	2	1～	前・後期	2	なし	○	○	◎	○
リーダーシップ開発Ⅰ	4人程度のチームで実社会の課題を題材にしたビジネスコンテストに取り組むことにより、基本的な学習スキルを習得するとともにリーダーシップを実践的に学ぶ。授業外グループワークを含めて、課題に関する調査、ディスカッション、資料作成、プレゼンテーションを行った後、チーム内での相互フィードバックと行動の振り返りを行うことで、各自の特色を活かした「自分らしい」リーダーシップ発揮の仕方に持論を持つことを目指す。 ここでいうリーダーシップとは、社長や権限を持つ人だけが発揮するものではなく、大学、サークル、アルバイトなど大学生活の様々な場面で誰もが発揮でき、伸ばすことができる能力を指す。 この授業では教員とともに先輩学生である学習アシスタント(LA)が司会進行やアドバイスをを行い、各自のリーダーシップの学びをサポートする。	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ行動をそれぞれリーダーシップ3要素に正しく分類できる。 ・授業内の経験を元に、リーダーシップ3要素を絡めてリーダーシップスキルの成長を1分以内で口頭説明することができる。 ・自分の強み、弱みを授業内の経験を元に100字以上で説明することができる。 ・論理思考で用いられる「要は、なぜなら、例えば」を適切に活用することができる。 ・チームで作成したビジネスプランの概要と提案背景を150字以上で説明することができる。 ・再度同じチームでビジネスコンテストを行う場合の改善行動を100字以上で説明することができる。 	2	1～	前期	1	プロジェクト型学習、経験学習、グループワーク、プレゼンテーション	△	○	○	◎
リーダーシップ開発Ⅱ	リーダーシップを効果的に発揮するために必須のスキルである質問力のトレーニングとリーダーシップ開発を同時に実現することを狙う科目である。 4人程度のチームで、前期(リーダーシップ1)より高度な、実践を交えたプロジェクトの企画運営を行う。前期の経験や反省点を元に、各自の特色を活かしたリーダーシップ持論の更なる探求と、チームメンバーの多様性の理解を促す。 リーダーシップ持論の更なる探求では、自分らしいリーダーシップの強みをより強固なものにし、授業以外の活動において自分がどのように貢献していくかという視点から、応用可能なリーダーシップの強みと意識すべき弱みを理解する。 ここでいうリーダーシップとは、社長や権限のある人だけが発揮するものではなく、大学、サークル、アルバイトなど大学生活の様々な場面で誰もが発揮でき、伸ばすことができる能力を指す。 この授業では教員とともに先輩学生である学習アシスタント(LA)が司会進行やアドバイスをを行い、各自のリーダーシップの学びをサポートする。	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に発揮、もしくは授業内で発揮したベストリーダーシップを1分間で発表することができる。 ・自分が今後発揮していきたいリーダーシップ行動をリーダーシップ3要素を含めて1分間で説明することができる。 ・日常生活においてどのように質問を使い、リーダーシップを発揮することができるか100字以上で説明することができる。 ・自分自身の特に秀でた長所を上げ、それがどのようにチーム活動に影響を与えたか100字以上で説明することができる。 ・自分の弱みをどのように今後克服していくか、もしくは補っていくかの具体的な計画を100字以上で説明することができる。 ・2年次にどのような挑戦を行い自分のリーダーシップを伸ばすか1分間で発表することができる。 	2	1～	後期	2	プロジェクト型学習、経験学習、グループワーク、プレゼンテーション	△	○	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
思考力トレーニング	<グループワークや発表を多数行う実践型の授業である。> 目標： ・論理的に考え、整理する思考とコミュニケーションの基礎を学ぶ。 ・実際のケースワークを用いて考えることで、日常生活で論理思考を応用できるようになる。 ・協同学習の態度を身につける。 背景： この授業では、論理思考の基礎を学ぶことを通して、「考える」力を育成する。論理的な思考力は、コミュニケーションスキルとともに、社会で求められるだけでなく、学生生活やゼミ活動にも役に立つ重要なスキルである。物事を整理して解決していくためのプロセスや、演繹法や帰納法といった考え方の基礎、分析手法を習得する。	・論理思考の基本的な考え方について説明できる。 ・問題解決思考の基本的な考え方について説明できる。 ・論理的思考や問題解決思考をゼミや日常生活で実践できる。	2	2	前・後期	1	グループワーク、 グループ・ディスカッション	○	○	◎	△
日本語リテラシーⅠ	中学・高校で学んだ知識・技能を土台にしなが ら、そこからの発展を目指す。情報を分析し、 文章化することを学ぶとともに、社会に出て も通用する多様な価値観や多角的なものの見 方(メディア・リテラシー)を実践的に身につける。	「学ぶ」ことの基本的な姿勢が定着する。解答が 一つではない様々な事象を、自身の問題とし て、分析、検証、評価して、それに基づいて行動 できる技術を獲得する。	2	1	前期	1	なし	○	○	◎	△
日本語リテラシーⅡ	前期で学んだ知識・技能を土台にしなが ら、それらを更に発展させることをめざす。社会に出 ても通用する多様な価値観や多角的なものの 見方を学び、レポートの作成や発表を通じて、 自らの考えを他者に伝えるスキルを身につける。	前期に引き続き、「学ぶ」姿勢を獲得する。解答 が一つではない様々な事象を、自身の問題とし て、分析、検証、評価して、それに基づいて行動 できる技術を身につける。	2	1	後期	1	なし	○	○	◎	△
哲学入門	哲学とは何か、考えるとは何かを学ぶ	この授業では「思考実験」と呼ばれる哲学特有の 方法について学びます。思考実験とは、「もし、あ なたの脳がある犯罪者の脳と突然入れ替わった として、逮捕されるべきなのはどちらか？」「この 世界は現実ではなく、あなたが見続けている夢な のではないか？」というように、仮想的な状況を想 定して、さまざまな哲学の問題を考えるという手 法のことです。古来より、哲学者は多くの思考実 験を行ってきました。実際には起こりえないことを 頭の中で考え、推論をおこなうことで、私たちが 常識とみなしている考え方が疑われ、新たな考え が生み出されていきます。みなさんも思考実験を 通じて世界の謎について考えてみましょう。	2	1～	後期	1	なし	◎	△	◎	△
倫理学入門	倫理学の基本用語や様々な原理について理 解し、この原理に立脚しつつ現代の生命倫理 の問題を考察できるようになることを目的とする	「人はどのように生きれば(よい)のか」という倫理 的な問いは、「自分(あるいは我々)はどのような 人間に成長したいのか」という人格形成につい ての問いと結びつく。そしてこうした問いは、最終 的に、「人間とは何であるのか」という人間学的な問 いに至り着くように思われる。講義ではこうした問 題を、さまざまな倫理思想や現代の生命倫理の 問題と結び付けて、多角的に考察できるようにな ることを目的とする。	2	1～	後期	1	講義「倫理学入門」では、パ ワーポイントで作成したスライ ドを使って授業を進めており、 アクティブラーニングを積極 的に取り入れている。例え ば、「道徳性の発達理論」の 紹介の回では、まず、具体的 なモラルジレンマの状況をス ライドで提示し、学生が自分 ならどう行動するのかを自分 で考え、自分が選択した行為 の根拠や理由を用紙に書か せ、後に担当者が回収して、 代表的な意見を読み上げ、 多様な意見に学生が耳を傾 け、視野を拡げられるように配 慮している、また、授業中に 自分の意見を口頭でプレゼン する時間も設定する。	○	○	◎	△
宗教学入門	宗教とは何か、様々な教義について学ぶ	皆さんのなかには、宗教に無関心か「宗教嫌い」 の人が多いのではないかと思います。しかし、人 が「生きる」ということ(もちろん「死ぬ」というこ と)を考えると、どうしても「宗教」の問題に行きつ いてしまうものようです。そこで、現代のいくつ かの具体的な宗教状況に触れながら、現代人が 「良く生きる」ための課題について考えてみたい と思います。	2	1～	後期	1	なし	○	○	○	◎
日本古典文学入門	文学とは何かについて学ぶ	趣味的に文学作品を享受することは大きく異な り、文学研究には学問として培われてきた概念や 方法、観点がある。この授業では、文学理論の基 礎的な概念のいくつかをとりあげ、具体的な文学 作品を題材にしながら学ぶ。	2	1～	前期	1	なし	◎	△	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
日本近代文学入門	日本文学の歴史について学ぶ	単に作者と作品名を暗記するのではなく、現在の日本文学にいたる上代から近世時代までの流れを歴史的に体系立ててとらえる。各時代をうつす鏡でもある古典文学という遺産を受け継ぎ、それらを適切に鑑賞することから始め、近現代文学の知識まで再確認し、文学史の流れを掴むことができる。	2	1～	後期	1	なし	◎	△	○	△
日本文化史	絵巻物から見た日本文化について学ぶ	日本の代表的な絵巻物を取り上げ、絵巻物に見る日本文化について理解することを目的としている。絵巻物という美術作品を、美術史・文化史の両面から捉え、多角的な視点で物事を捉える力を身につけることを目指す。授業は講義が中心で、プロジェクターを使って作品を紹介しながら進める。	2	1～	前期	1	発見学習	○	△	○	◎
言語学入門	言葉の構造と意味の研究について、歴史的に外観し、新しい研究のアプローチを紹介する	言語の研究についての理論と実際を広範囲にわたって検討する。前期では、話し言葉がどのように研究されてきたかを歴史的に外観し、多岐にわたる理論や研究の方法を紹介する。次に、現在の話し言葉の研究を紹介し、その方法を用いて社会的な問題や疑問点を検討することができることを示す。	2	1～	前期	1	なし	△	◎	△	△
社会言語学入門	この講義では、ことばがからむ様々な問題について、「言語と国家の政策」「外国語教育」「言語と法」「言語障害」といったトピックを中心に学び、科学的証拠をもとに理解していく。	1. 言語と言語政策について理解できる。 2. 外国語教育とバイリンガリズムについて理解し、説明できる。 3. 法と言語の関連性について説明できる。 4. 言語障害から起きる問題について理解できる。	2	1～	後期	1	なし	△	◎	△	△
心理学概論	感覚、知覚、記憶の心理学	心理学は「こころ」を研究する科学である。この授業では、様々な心理学領域の中から、知覚心理学、認知心理学、学習心理学、社会心理学、健康心理学などについて、その基礎的な内容を幅広く学ぶ。さらにはその健全で幸福な日常生活に役立つ様々な心理学的知見を獲得する。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	△
人間関係論	人間関係における諸理論を学ぶ	人間関係における諸理論について知り、理解できるようになることを目的とする。集団や組織における人間関係諸相についての基本的な事実や法則を理解し、人間関係の重要性についての理解する。	2	1～	前期	1	なし	○	○	◎	△
美術史概説	人類は何をテーマに何を求めて表現してきたのか？古代から19世紀半ば頃までの、主に欧米と日本の美術史を学ぶとともに、作品を見ることに係る技術や言語等について理解を深める。	美術史の大きな流れや展開を理解し、作品が作られた背景やテーマ、意味、表現方法等に係る基本的な知識や技術を身につけます。	2	2～	前期	2	体験学習	◎	○	○	△
民俗学概論	年中行事について	民俗学は、口頭で伝承されてきた文化を調査・研究する学問である。民俗学は、各地の人々が自然と向き合い、より良い社会を形成するための知恵や情報を重要視する。 カレンダーや学校などはそれぞれ違う時期に始まり、一年のサイクルで繰り返される。多くの年中行事も毎年繰り返される。日本における年中行事の本質と変遷について、正月・お盆を中心に解説する。お正月の神様・節分の鬼・お盆の先祖霊の共通点・相違点に論究する。	2	2～	前期	2	なし	◎	○	△	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
考古学概論	考古学は、さまざまな考古資料(遺跡・遺構・遺物)の研究に基づき、人類の過去を復元する学問である。この授業では、考古学の発掘調査の方法や考古資料の基礎的な研究方法を学ぶ。考古学的な知見がどのような研究の手続きを経て得られているのかを理解できるようになることを目的とする。	・考古学の基礎的な方法論や関連分野の研究手法について知り、考古学的な知見が得られるまでのプロセスを説明できる。 ・日本の考古学の具体的な研究事例を通して、各時代の文化や社会について説明できる。	2	2～	前期	2	本講義は、従来型の一方的な講義による知識獲得(60分程度)をあえて重視する一方、受講者一人一人の主体的な学習を促すために意見・質問へのフィードバック(30分程度)をおこなっている。受講者は毎回の授業の終わりに、授業に対する感想・意見・疑問点を書いて提出する。次の講義のはじめには、教員が提出された意見を紹介し、多様な視点や考え方を出席者全員で共有する。また、寄せられた質問・疑問点を10～15個ほどに絞って紹介し、前回の復習と補足を兼ねて質問への回答をおこなう。学期末のレポートでは、受講者はフィールドワークに出かけ、実物の考古資料に接する。授業時間外に身近な遺跡や博物館に行き、各自が興味のある考古資料の一つを選び観察しレポートにまとめる。講義内の事前学習で得た知識を活かしてその遺跡や遺物の概要を報告することにより、知識を自分なりの活きたものにする。上記のアクティブラーニングの実施状況は2019年度のもので、来年度以降は改善	◎	○	○	△
日本史概説	日本の歴史について、12世紀頃までを中心に学ぶ。これまで学んできた日本の通史を確認するとともに、生活・文化・宗教・社会構造の変化に即して多面的に理解する。兵庫県南部地域を中心とした歴史についても考察する。また、史資料の取り扱い方を学び、史料批判をふまえて歴史を考えると、歴史学研究に対する理解を深める。	授業を通して、歴史学に取り組む基本姿勢を学び、多面的な歴史像を理解して自分の意見を述べるができる。	2	2～	前期	2	実際に史料を読み、グループで議論することで、理解を深める。	○	◎	○	○
外国史概説	歴史学とは、本来、年号や人名といった過去の事例に関するデータを暗記することではない。それは、過去と現代の間で交わされる積極的かつ豊かな「対話」である。こうした対話を通して、我々は過去を理解するだけでなく、自らを省みる機会や、現代社会における様々な問題を理解するための重要な示唆を得ることも可能となる。本講義の目的は、こうした「歴史を学ぶ意義」を段階を踏んで理解することを通して、「歴史を学ぶ」「歴史を教える」という行為の意味を、受講者本人が自分にも関係のある事柄として考える機会を提供することである。	1) 具体的な事例に関する文献資料や絵画資料の読解を通して、高校までの「世界史」とは異なる「歴史の学び方」を理解する。 2) 過去の出来事に対し、当時の社会状況などを視野に入れながら考察し、史料に基づき論理的に理解を深めていくことの大切さを認識する。 3) 異なる時代や地域、文化を持つ社会に対する理解を深める。	2	3～	前期	3	なし	◎	○	○	○
日本国憲法	教職課程、看護師、理学療法士の資格試験の選択科目の一つである。しかし、資格取得にとどまらず、学生が、市民社会と憲法は深く結びついていることを理解できるようになることを目的とする。	学生が、憲法の保障している基本的人権を認識し、憲法の定めている現代の政治システムを選挙などの身近な事柄からはじめることで、全体のシステムや新聞等で取り上げられる憲法上の問題を理解できるようになる。	2	1～	前・後期	1	なし	○	○	◎	△
法学概論	学生が、法とはどういうものであるのかを知り、法的思考(リーガルマインド)を身につけることを目的とする。	学生が、法的思考を身につけ、社会の制度や事件について分析し、自分の意見が述べることができるようになる。	2	1～	前期	1	なし	○	○	◎	△
政治学概論	政治学の基礎的な内容を学ぶことで、現代の政治を理解する上で、重要なことがらを理解できるようになることを目的とする。例えば、現代の政治はどのような仕組みで行われるのか。民主主義とはどのようなものか。政治を担う人々とは誰でどのように動いているのか。	政治学の基礎を身につけることができるようになる。現代の政治がどのように動いているのか理解できるようになる。また、ニュースなどを見たときに政治に関する現象をこの授業で学んだ政治学の言葉を用いて説明できるようになる。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	△
経済学概論	高校の「地理・歴史」および「政治経済」で習った経済分野の知識を復習しながら、日本経済の現状と世界経済の流れについて基礎的な理解をすることを目的とする。	経済学と経済の基本的な仕組みが理解でき、経済ニュースの内容を理解できるようになることを目標とする。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	△	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
社会学概論	社会学とはどういったものか学ぶ	理論というのは、一見すると難しいものに見えるが、その特性をきちんと理解すれば、複雑な現代社会を読み解く有用な道具となる。本講義では、社会学の基礎的用語および主要学説・理論を理解し、社会学的思考および視点を身につける。その上で現代社会の問題を考察する力、自分自身の意見を形成・表現する力を養う。	2	1～	前期	1	なし	○	○	○	◎
メディア表現入門	メディア表現の方法を学ぶ	多様なメディア表現(写真、インターネット、アートプロジェクト、メディアアート、映画、情報、マンガなど)に関する作品やプロジェクトに触れ、その表現方法の特徴や理論的な背景、分析方法などを学ぶことによって、メディア文化に対する理解を深める。	2	1～	前期	1	発見学習	◎	○	○	△
人権教育	人権という言葉を知らない人はいないはずだ。そして、人権の保障が大事であることも、誰もが同意するだろう。しかし、「人権とは何か」と問われてははっきりと答えられる人は、おそらく少ない。では、守るべき「人権」の意味がわからずに、それを守ることができるだろうか。「人権」とは何かを知らずに、それを教えることができるだろうか。 この授業では、教員・社会人として、あるいは市民として生活する際に必要となる人権の知識や感覚を、基礎的なところから理解すると共に、人権を「自分ごと」として感じられるようになることをねらいとする。	①人権に関する基礎的な知識について理解し、説明できるようになる。 ②具体的な人権課題について基礎的な事実を知るとともに、自分の意見を表現できるようになる。 ③人権を自分自身にも関連することとして理解できるようになる。 ④人権教育の基本的な視点について理解することができる。	2	1～	前・後期	1	なし	○	◎	○	○
ボランティア論	ボランティアの意義と実情を学ぶ	日常的に使われるようになった「ボランティア」。その言葉や活動には、どのような意味が込められているのか？ 本講義では、ディスカッションを取り入れながら、日本社会や私たちの身近にある「ボランティア」活動の動向について学ぶ。また、企業・福祉・教育・国際協力といった多様な場面の中でボランティアはどのような期待を持たれているのか？ 実際の活動と課題について考える。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	△
文化人類学入門	民族・社会間の文化や社会構造について学ぶ	まず、文化人類学の基本的考え方である文化相対主義、及び、長期定着調査・参与観察による異文化理解の方法論が、現代社会でどのような役に立つのかを考える。	2	1～	後期	1	なし	◎	△	○	△
環境にやさしい暮らし	日々の生活の中では生活者の活動が環境に影響を与え、地球温暖化をはじめとする様々な問題を引き起こしている。しかし、暮らしの中では、その原因や、もたらしている影響を理解しにくい。本講義では、生活者の視点から、まず衣・食・住が環境とどのような関係にあるのかを学ぶ。そこから発展させて、製品づくりや企業の社会的責任、さらには都市化がもたらす環境問題への地方自治体の取組み、環境保全のためのさまざまな手法などについても学ぶ。その上で、自ら環境に配慮したライフスタイルを構築できるようになることを目指す。暮らしの視点から環境を考える。	地球温暖化をはじめとする地球環境の変化が起こっていると言われている。しかし、生活環境の中では、地球環境の変化によってどのような影響を受けているのかを認識しにくい。本講義は、私たちの日常生活の視点から地球環境問題を考えられるように、できるだけ身の回りで起こっている具体的な地球温暖化による影響について事例を通じて理解できるようになることを目的とする。その上で、自治体、国、世界がどのような対策を考えているのかについての知識を習得し、暮らしの中で環境に配慮できるようになる。	2	1～	前期	2	なし	◎	△	○	○
子ども・子育て入門	子どもについての基本的な知識理解と同時に、子育ての価値や意義を学ぶ。	・多様な子育て支援の現状と意義を説明できる。 ・子どもの発達を多面的に理解し、子育てと関連付けて考えることができる。 ・国内外の教育・保育の歴史的背景をふまえ、子育ての現代的課題を捉えることができる。	2	2～	後期	2	なし	◎	○	○	
AIとライフデザイン	現代は「情報社会」と言われることがあるように、情報技術の発展につれて様々な情報メディアが登場し、社会に普及し、影響を与えている。この授業のテーマとなっている「AI」(人工知能)もその一つであり、今後世の中に大きな影響を与えることだろう。AIについて、特に私たちの生活とのかかわりを考えていくことが、この授業のねらいである。	現代の情報社会について、特にコンピュータを中心として十分に理解し、AI(人工知能)についてもその基礎知識を得て、それが与える影響について考えるための基盤とすること。	2	2～	後期	2	なし	◎	○	○	
人文地理学	“地理は暗記科目ではない”ということを理解してほしい。授業では地理学史、および人文地理学における古典的なモデル論にふれ、その有効性と問題点を考える。また、「地理学的発想」および「地理学的手法」というものについて学び、「地理学」は他の研究分野とどのように異なり、どのように類似するのか考える。	近年発展した分野について学習し、「地理学」はどのように社会に貢献できるかという可能性について考える。あわせて“地理嫌い”はどうして形成されるのか、またそれに対する処方を考えてみることに。	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション	○	◎	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
生物学の基礎	この授業では、現代の生物学が形成されるうえでのエポックメイキングとなった発見について学ぶ。時代背景にも注目し、これらの発見が社会に与えた影響についても学ぶ。講義前半では医学・生物学の「病原体」との格闘の歴史をたどりながら、科学的実証主義について学んでもらう。講義後半では遺伝子についての研究とそれが社会に与えた影響について学ぶ。	科学の持つ合理性や公開性は結局、有益だから生まれたものだということを理解し、今後の皆さんの生活に生かすこと。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	△	○	
化学の基礎	現代の社会に不可欠なキーワードである、先端技術、資源、エネルギー、環境などは化学と密接に関係している。この講義では、高等学校で学んだ「化学」の基礎を整理・復習するとともに、“物質のなりたち”や“物質の変化”を理解することで、生活科学系や看護・リハビリテーション系の専門科目に必要な基礎知識としての化学を学ぶ。	専門分野における自然科学の授業が容易に理解できるようになることを目指す。特に、物質の変換(化学反応)が化学結合の組み換えであることを理解し、化学エネルギーの意義が理解できる。	2	1～	前期	1	なし	◎	△	○	
生化学の基礎	私たちは特に意識することなく生の営みを続けることができている。これは自動的に走り続けるシステムが私たちを支え続けてくれているからである。この授業ではそういった「食う寝る遊ぶ」を支えているシステムについて学ぶ。化学物質の暗記を強いるようなことはない。	生命が自動的に動く機械システムを持つということを知り、同時に、本人の意思などにより容易に変革しうる面も持つことも知ること。	2	1～	前期	1	なし	◎	△	○	
物理学の基礎	高校の物理基礎	科学技術の進歩した現代の生活は、自然科学、特に物理の基本的法則が基礎になっています。たとえば、どんなエネルギー革命が起きても、その基本はエネルギー保存の法則です。無から有を生ずることは決してありません。ですから進歩した科学や科学技術を理解・応用するためには物理の基礎知識がますます必要となります。この授業では、大学で科学や科学技術を学ぶために必要となるごく基本的な物理学を解説します。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	○	○	△
数学の基礎	高校の数学I/数学II	数学の基本的な概念や考え方を学習する。実社会の中に現れる基礎的な数学的な概念を取り扱えるようになる。統計学に必要な数学的基礎概念を取り扱えるようになる。	2	1～	前期	1	問題解決学習	○	△	△	△
統計学の基礎	記述統計とt検定・ χ^2 乗検定まで	統計学は実験や観察によって得られた限られた情報から、その情報の背後にある世界のあり方を推測する理論であり、自然科学・社会科学を問わず現代の科学の基礎となっている。この講義では統計学の基本的な概念と考え方、計算方法を学ぶ。	2	1～	後期	1	問題解決学習	◎	○	△	△
生態学入門	生態学の基礎的な知識や考え方について説明する。まず、基礎的な事項として個体群の動態について、次に進化と遺伝について、さらに群集の動態について説明をする。最後に全体のまとめとして、外来生物が地域の生態系や生活に与える影響を取り上げ、生態系と人間との関わりについて解説する。	・多様な生物の生き方、生物相互の関係、生物と環境との関係を理解する。 ・生態学の基礎的な概念を説明できる。 ・野外に生息する動植物とその生息環境との関係を考察できる。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	△	
生命科学入門	DNAは生命の設計図」とよく言われるが、その設計図がどう実現するのかはまだ謎に満ちている。このような「実現」がどのように起こるのかを、この講義ではみていく。また、生命が環境条件にあわせてエピゲノミックなコントロールを自らに加え、環境適応する仕組みについてもみてゆく。	哺乳類の抱える長所短所を理解する。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	△	○	
自然環境学入門	自然環境には、生物だけでなく非生物も含まれている。また、地域によっても多様な自然が存在する。このような自然環境は人間活動が活動するための資源として重要である。本科目では、身近な自然環境について観察する方法を身に付けるとともに、自然環境をうまく活用する方法を理解する基礎を理解することを目的とする。まず、自然環境の概要を解説する。次に、自然環境がどのように活用されてきたのかを確認する。さらに、今後の活用方法について検討をする。	・地球・生物・人類の歴史について説明できる。 ・身の回りの生物を適切に観察することができる。 ・世界の気候と日本の植生について説明できる。 ・都市の成り立ちと自然環境について考察できる。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	△	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
地球環境論	講義前半では私たちの知る地球環境が形成されるまでの歴史を概括する。地球自身のダイナミズムによる地球環境の変化と生命活動が原因となった地球環境の変化が重なり合って、現在の地球環境がある意味、奇跡的に生まれたことを理解することが目的である。後半ではその地球環境の中で生まれた人類とその文明が、地球のダイナミズムによりどう影響を受けるのか、あるいは地球環境に対しどんな変成作用を及ぼしているのかを考えていく。	感情論に流されることなく環境問題を考えられるだけの基礎的思考力を身に着ける。	2	2～	前・後期	2	なし	◎		△	○
自然地理学	地形・地質を中心に、自然地理学の基礎について講義する。授業は、中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の教員を目指す学生にとって必須の内容を中心に、歴史的な視点も含めつつ、自然災害との関連性についても紹介する。また、教科書(テキスト)に指定した地図帳を授業時間内に頻繁に参照することで、受講生の空間認知度を少しでも高めることも目的とした。	自然地理学(地形学および関連分野)の基本的情報・知識を備え、それを論理的に分析・表現できる汎用的技能を身に着けることを目標に置く。加えて、本授業の履修後も、当該の学問分野に関して自律・自立して学習できる態度・志向性を養うことを目指す。	2	2～	後期	2	フィールドワーク(野外観察実習)	◎	○	◎	○
看護学の世界	看護学とは何かについて学ぶ	ケアの原理を基盤に、看護とは何かを学び、様々な発達段階にある人の特性、また心身の健康・疾病・障害と人々の生活との関連を知り、看護の果たす役割を学ぶ。さらに様々な場や状況における看護の役割を学び、看護の多様性を知ること等をねらいとする。	2	1～	後期	1	グループ ディスカッション	◎	△	○	△
女性の生涯と健康	看護学から見た生涯を通じた女性の心身の健康について学ぶ	女性のライフサイクルにおいて、大学生は性成熟の観点から節目の時代と言える。この時期に自分の心と身体の健康について関心を抱き、主体的に考え、行動できる力を養うことは、学生自身のこれからの人生にとって有意義である。そこで現代女性の健康問題を取り上げ、学習と実践を通して自分の健康を自己管理できるようになることをねらいとする。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	○
保健概論	生涯を通じた健康な生活について学ぶ	生涯を通じて健康に過ごすために、健康について考え、学ぶことは重要である。本講義では、特に教職をめざす学生に知ってもらいたい保健概論として、小学校から高等学校までに学んできた科目「保健」の知識をもとにしてわたしたちのからだ健康について科学的な知識理解を深める。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	△	○	△
リハビリテーション入門	リハビリテーションについて学ぶ	医療従事者がどのようにリハビリテーションに関与しているのかについて学び、医療に係わる職業人になるという自覚を持てるようになる事を目標とする。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	△
健康に生きる	生涯を健康に過ごすために必要な知識を学ぶ	限りある「生」を愛おしみ、人生をよりよく生きていきたい、というのが誰しも願っているはずなのに、今日、この「命」の願いを踏みにじる出来事があまりにも野放図に発生している。今一度、私たちの「命」「健康」について学び、“私”だけでなく“皆”の「命」「健康」の大切さを再認識してもらおう。健康的な体とはどのような状態かを認識するとともに、病気や外傷によって健康が損なわれたり、身体に障害を伴うことになった場合に如何に健康的な状態にするかを考えていきたいと思う。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	△
女性と運動	運動学から見た女性の健康について学ぶ	「健康に効果的な運動について」である。人は誰もが健康でありたいと思い、近年健康への関心が高まりつつある。しかし、どのような運動が健康のために最適かは、十分理解されていないようである。そこで、健康に効果的な運動について教授する。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	△
女性のための栄養学	近未来に母となる女子学生が、栄養学的な観点から健康的な一生を送るために必要な知識を修得する。	ライフステージ(例えば、妊活期、妊娠期、授乳期など)ごとの栄養素の必要量を知り、実際の生活に活用できる。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
ジェンダー論入門	ジェンダーについて学ぶ	ジェンダーについて考えることとは、男女に関すること(「男とは何か」「女とは何か」「男らしさ」「女らしさ」など)を取り巻く様々な社会的事象について考えることである。しかし同時に、「人と人との関係性」について考えることでもある。近年、「男女平等は必要であるが、しかし男女の特性は重んじるべきだ」という風潮が強くなっている。本講義では、様々な人間が生きる社会とは何かという視点から、「あたりまえ」「よきもの」とされているジェンダーを再考する。身近な問題としての恋愛や結婚、家族、教育、労働など現代社会で生きる上での様々な場面や切り口から、ジェンダーについて学び、「自分とは異なる価値観、生き方の、様々な他者をいかに尊重するか」という問いを探っていく。	2	1～	後期	1	なし	○	○	○	◎
女性と家族	社会と家族のしくみについて学ぶ	現代社会においては、多様な個人が多様なライフスタイルを選択することが表向きは可能とされている。しかし、現実にはしばしば、「あたりまえ」とされている生き方が、多様な個人の生き方に影響を及ぼす。授業では、「家族のあり方」を軸に、「あたりまえ」とされる現実が、なぜ存在しているのか、また、どのような形で存在しているのかについて学ぶ。さらに、それらの「社会と家族のしくみについて知る作業」を通じ、他者への想像力を育み、多様な個人のライフスタイルを尊重した家族の可能性について考察する。	2	1～	前期	1	なし	○	○	○	◎
女子学	女性の趣味的行動・消費行動やサブカルチャーについて学ぶ	(1)文化研究の基礎的な考え方を学び、それに基づいて文化現象を考えることができるようになる。 (2)具体的な文化現象をとおして、女性の置かれた現状・問題点を考えることができるようになる。	2	1～	前期	1	なし	○	○	○	◎
女性の歴史	日本・世界を含む女性を主体とした視点による歴史を学ぶ	近現代女性史の基礎を理解し、説明できる。女性の置かれた状況を、歴史的・相対的に理解し、自らの置かれた状況を比較しつつ捉えることができる。これからの社会のあり方について、考えを巡らすことができる。	2	1～	前期	1	なし	○	○	○	◎
女性とコミュニケーション	アサーション、アンガーマネジメントなどについて学ぶ	「聞く(聴く)」「理解する」「伝える」といったコミュニケーションの基本的な仕組みや意味を理解する。自分の気持ちや考え、意見をしっかりと伝えられる。他者の気持ちや考え、意見を受容的、共感的に聴くことができる。対人関係における悩みや困りごととの付き合い方のヒントを身につける。	2	1～	前期	1	他者の気持ちや考え、意見を受容的、共感的に聞くための傾聴実践を取り入れる。	△	○	◎	○
国際社会とジェンダー	国際社会におけるジェンダーについて学ぶ	西欧近代の人権にかかわる思想と実践における女性の不在について知るとともに、女性の権利獲得運動の歴史を確認し、それらがLGBTの運動へと展開していった流れを理解する。これらの理解をもとに、ジェンダー主流化のなかで自身の将来について考えるきっかけにする。	2	2～	後期	2	発見学習	○	△	○	◎
女性と社会・仕事	社会政策・社会進出・男女共同参画・労働・法について学ぶ	・現代社会に生きる女性が抱える問題と、その問題の社会的・歴史的背景を探求することができる。 ・女性と仕事に関わる諸問題を探求することで、女性がよりよく生き、働くために何が必要か、問題の解決策を考えていくことができる。 ・ケアワークが無償労働として家庭内だけに求められる状況が、いかに女性の生き方を制限しているかを知り、医療、福祉に携わる職の重要性を理解し、考察することができる。 ・授業で得た知識と深めた考察を自分の言葉で伝えること、さらに、他の人の言葉を受け取ることができる。このコミュニケーションを通して幅広い教養を身に付け、各自の個性や多様な考え方を理解することができる。 ・自分は女性である前に一人の個人であることを理解し、その理解を前提に社会のなかに自分を位置付けたうえでキャリアデザインをすることができる。	2	2～	後期	2	なし	○	○	○	◎
女性と身体	文化社会学的身体論(美容整形、ダイエットなど)	生活の中であたりまえになっている様々な枠づけについて、社会学的な視点から考察することができる。また、そうした視点から、社会の中での女性のあり方について、自身の考えを持つことができる。	2	2～	後期	2	なし	○	○	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
女性のための法律	日本国憲法14条は法の下での平等を、同24条は家族生活における個人の尊厳と両性の本質的平等を規定しているにもかかわらず、9割以上の女性が婚姻に際し姓を変えている。また、2021年3月に世界経済フォーラムが公表した「ジェンダーギャップ指数2021」において、日本は156カ国中120位と他国と比較しても男女間において様々な格差が存在している。それ故、日本においては、女性であるために男性より不利な状況に置かれる可能性がある場面が多々存在している。本授業ではかかる実情を踏まえ、女性が今後の人生において体験するであろう様々な出来事に焦点をあて、これらの出来事に関連する法律を知り、各出来事を法的な観点から分析することにより、将来問題に遭遇した際によりよい選択ができるようにすると共に問題解決能力を身につけることを目的とする。	女性の地位及び権利がどのように発展してきたかを知ること、他国と比較して日本における女性の地位及び権利はどの分野で進んでおり、どの分野が不十分であるかを知ること、女性の権利を保護するためにどのような法律・手段があるかを知ること、男女平等を実現するためにどのような問題が裁判で争われてきたか、判例の到達点はどこかを知ること、女性の権利を保護・促進するためにどのような方策があるかを知ることにより、自ら問題に対処する能力を身につける。	2	2～	前期	2	なし	◎	△	○	
ヨーロッパの文化	ヨーロッパとは何か。それをヨーロッパの歴史と文化を概観することで理解する。広く西欧文化という文脈で身に備えるべき知識と教養を身につける。	ヨーロッパの文化についてその歴史と関連付けて、その共通性、多様性について概略を理解する。西欧文化に関する基礎的な素養が身につく。	2	1～	後期	2	なし	◎	△	○	△
アジアの文化	アジアの文化について学ぶ	東南アジア地域を対象として民族、言語、国民国家、宗教をキーワードに西欧との関係や開発、グローバル化、ナショナリズムなどについて学ぶ。前半の講義では、言語、民族、国家、宗教のモザイク状況が成立してきた歴史的過程から東南アジア地域の概観を理解する。後半の講義では、タイ国の少数民族に焦点を当てる。そして周縁の視点から、民族のアイデンティティ形成や国家の森林保護政策、世界宗教であるキリスト教への改宗、難民など現在東南アジアで生起する諸問題や地域社会の変容について考える力を身につける。	2	1～	後期	1	なし	◎	△	○	△
現代ヨーロッパ事情	ヨーロッパとは何か。それをヨーロッパの近現代史を概観し、二度の世界大戦、東西冷戦、EUの発展と課題などを軸に理解する。政治・経済の文脈でヨーロッパについての身に備えるべき知識と教養を身につける。	近現代のヨーロッパで起こった出来事の概要を把握し、今日のヨーロッパが抱える課題について理解する。政治・経済の文脈で欧州についての身に備えるべき知識と教養が身につく。	2	1～	前期	2	なし	◎	△	○	△
現代アジア事情	現代アジアの諸問題について学ぶ	歴史的にも、文化的にも私たちと深いつながりがあるアジア。人口、経済ともに近年急成長をとげています。アジアを知ること、私たちの過去と今を知り、未来を考えることでもあります。人々はいかに暮らし、いかなる変化を経験し、私たちの暮らしとどんな繋がりがあるのでしょうか。この授業のねらいは、日本との比較を念頭に、他のアジア諸国、とくに南アジア(インド、スリランカなど)地域の文化や社会、ジェンダーについての理解を深めることです。アジアにはさまざまな国がありますが、国境にとらわれる必要はありません。ヒンドゥー教やイスラームという宗教の視点で見ればどんなアジア世界が見えてくるのでしょうか。近年の人々の移動に注目すればアジア世界のダイナミズムへの理解が深まります。映像資料を使って、アジア世界の多様性に触れます。	2	1～	前期	1	なし	◎	△	○	△
グローバル社会論	グローバル社会について学ぶ	近年の国際的な環境問題や、さまざまな取り組み、枠組み作りについて、その政治的な構図を読みとり、問題点を指摘することができるような能力を身につける。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	△
海外学習マネジメント	留学やインターンシップ、NPOでの活動、ボランティアなど、多様化しつつある大学生としての海外での学びに関するマネジメントについて総合的に学習する。一つは、将来のキャリアに結びつけるための目標課題設定とその評価など、学修のPDCA管理とフィードバックについて学ぶ。さらに、渡航中の安全危機管理について、また、充実した学びのために欠かすことのできない心身の管理について、基礎的な知識を獲得し、情報収集の方法を会得し、実際の対処について実践的に学習し、海外での学びに備える。	大学在学中に行う海外での学習に関して、将来のキャリアを見据えた上で、目標を立て、客観的振り返りを行うことで、学習効果を高めることができるようになる。また、リスク・危機管理の基礎、安全情報の収集、医療上の対応方法、トラブルを未然に防ぐ方法を知って、万一の時に自分で対応できるようになる。	2	1～	前・後期	1	なし	△	◎	○	◎
海外演習A	海外短期研修単位認定科目(学習時間45時間以上)		1	1～			なし	△	○	○	◎
海外演習B	海外短期研修単位認定科目(学習時間90時間以上)		2	1～			なし	△	○	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
造形芸術(絵画)	絵画の手法を学び、その実践	目に見えない(感覚)を、目に見える(感覚のカタチ)として高度に造形化された作品は、完成までに多くの“下描き”があり、画家の“問いかけ”の連続が見えてくる。それは重要なプロセスなのであり、そこから学び、検証し、世界観の広がりを感じたい。 この授業では絵画作品の鑑賞とデッサン、貼り絵の制作を行い、鑑賞力、考察力、基礎造形力を養うことを目指す。真摯に誠実に取り組むことで、目標達成は十分叶うと考えるので、実技が苦手だという人も頑張ってもらいたい。経験豊富者は更に目と手を鍛えるべく、深い学びの機会としたい。	2	1～	前期	1	問題解決学習	△	○	◎	○
造形芸術(彫刻)	彫刻の手法を学び、その実践	目に見えない(感覚)を、目に見える(感覚のカタチ)として高度に造形化された作品は、完成までに多くの“下描き”があり、それは“問いかけ”の連続であることが見えてくる。その重要なプロセスをこそ学び、検証し、世界観、視野の広がりを感じたい。 この授業では彫刻の魅力と鑑賞とデッサン、制作により考察し、鑑賞力、立体、基礎造形力を養うことを目指す。真摯に誠実に取り組むことで、目標達成は十分叶うと考えるので、実技が苦手だという人も頑張ってもらいたい。経験豊富者は更に目と手を鍛えるべく、深い学びの機会としたい。	2	1～	後期	1	問題解決学習	△	○	◎	○
音楽の基礎	音楽の理論、歴史について学ぶ	音楽の基礎的な知識を深め、かつ能力を高める事により、より音楽を楽しむ事の出来る事を目的とし、楽典・音楽理論を学習し、音、音程、音階、リズム、調、和音等を理解する。	2	1～	前期	1	発見学習	◎	○	○	△
合唱音楽	合唱の理論を学び、その実践	合唱において歌を歌うことにより自己表現の大切さを体験する。将来合唱を指導しようとする指導者としてのヒントが得られる。本学の芦原講堂にてパブリック・パフォーマンス(一般に開かれた演奏会)を行う。	2	1～	後期	1	体験学習	△	○	○	◎
音楽鑑賞A	民族音楽と音楽における奏者、指揮者の役割を学ぶ	世界の諸地域にさまざまな人々がおり、音楽を奏し、パフォーマンスを演じる。また彼らはいろいろな特徴や役割をもつ固有の楽器や発声法を所有し、さらに多様な形態のアンサンブル方法ももっており、それは生きかたや行動様式にも結びついている。本講義では、その中で生み出される諸民族の地域や歴史に根ざした音楽、ポピュラー音楽、芸術音楽など多様な音楽を鑑賞し、その内容を考察する。その音文化を生み出し、受容する人間の音楽行動を見つめ直すことで、音楽そのもののみならず、音楽を育む文化について知識を深め、理解することを目的とする。	2	1～	前期	1	発見学習	◎	△	○	○
音楽鑑賞B	舞台音楽、映画音楽と音楽の社会的意義を学ぶ	現在私たちはさまざまなメディアを通して、多様な世界の諸民族の音楽、ポピュラー音楽、芸術音楽などの音楽・音文化を体験、受容している。本講義では、それらを鑑賞し、音楽文化の歴史的・社会的意味について知識を深め、理解することを目的とする。	2	1～	後期	1	発見学習	◎	△	○	○
オルガン音楽(構造)	パイプオルガンの基本構造と発音原理を学ぶ	パイプオルガンの基本構造と発音原理を理解することを通じて、オルガン音楽に親しみをもち、音楽文化への理解を深めるようになることを目的とする。また、学内のオルガン見学及び鑑賞の機会をもうけ、本学のパイプオルガンの楽器としての価値や存在意義を知り、音楽のもたらす力を感じ取ることができるようにする。	2	1～	前期	1	体験学習	◎	△	○	○
オルガン音楽(器楽)	パイプオルガンとその音楽の発展について学ぶ	最も長い歴史を持つ楽器の一つ、パイプオルガンとその音楽の発展を、楽曲鑑賞を行いつつ、政治経済の発展や音楽以外の芸術との関わりにも留意しつつ、西洋音楽史の流れの中のオルガン音楽の変遷を知って、オルガンとオルガン音楽に親しみをもち、その発展を目的とする。	2	1～	後期	1	体験学習	◎	△	○	○
オルガン音楽演習	パイプオルガンの基本的な操作と演奏	パイプオルガンとオルガン音楽に親しみ、パイプオルガンとピアノや電子オルガンなど他の楽器との違いを知って、基本的な操作と演奏ができるようになることを目的とする。	2	1～	前期	1	体験学習	○	◎	△	○
(オルガン音楽実習Ⅱ)	パイプオルガンの簡単な手鍵盤と足鍵盤のアンサンブル	パイプオルガンの奏法を学び、簡単な手鍵盤と足鍵盤のアンサンブルができるようになることを通じて、オルガン音楽により深く親しみ、音楽文化に対する理解を深めるようにする。	1	1～	後期	2	プレゼンテーション	△	◎	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
日本の文化(茶道)	茶の湯とその歴史を学び、茶道実践	茶の湯の歴史を概観することにより、日本の文化の特徴を考える。茶の湯は、中国の文化を受容した上で、日本独自の変容を遂げた芸術である。茶の湯の歴史を学ぶことを通じて、芸道について、また美術・工芸・建築についても、総合的に考える。	2	2～	前期	2	体験学習、調査学習	◎	△	○	○
日本の文化(華道)	いけばなとその歴史を学び、いけばな実践	日本の生け花を通史的に概観することにより、日本の文化の特徴を考える。中国の文化をはじめとする外来文化を、受容し変容させるという意味において、生け花は、日本の芸術の典型例の一つである。歴史を振り返り、さらには植物の美の普遍性、また飾る空間等についても考えたい。	2	2～	後期	2	体験学習、調査学習	◎	△	○	○
ホスピタリティ入門	ホスピタリティに関する基本的な概念を学ぶ	ホスピタリティに関する基本的な概念を把握し、広く社会においてホスピタリティがどのように捉えられ、発現されてきたのかを理解する。また、ホスピタリティ産業(宿泊業、飲食業、レジャー業など)を通じて、ホスピタリティの特徴や要因について考察していきたい。	2	1～	前・後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	△	△	△	◎
キャリアデザイン I	ライフプランニングと自己分析についての実践	仲間と関わることでグループ内における自己の役割を認識しつつ、一つの課題に対して仲間と切磋琢磨しながら取り組むことの楽しさを学ぶ。授業の内容に応じて、座学とグループ学習を使い分ける。座学では主にインプットを中心とし、①大学生活の過ごし方 ②自己の発見 ③目標設定の方法について学ぶ。またグループ学習では主にアウトプットを中心とし、①母校に対する愛着 ②協調性 ③コミュニケーション力を養う。	2	1～	前・後期	1	グループワーク、グループ・ディスカッション	◎	○	○	△
キャリアデザイン II	社会に必要なコミュニケーションの手法を学ぶ	仲間と関わることでグループ内における自己の役割を認識しつつ、一つの課題に対して仲間と切磋琢磨しながら取り組むことの楽しさを学ぶ。ゲームや実践によって、コミュニケーションの必要性や手法を学び、実生活の中で磨いていく。授業の内容に応じて、座学とグループ学習を使い分ける。座学では主にインプットを中心とし、①自身の軸の確立 ②物事の考え方・伝え方 ③計画のふり返りについて学ぶ。またグループ学習では主にアウトプットを中心とし、①ディベート、ディスカッションの体験 ②共同作業による目標達成 ③問題解決能力を身に付ける。	2	2～	前期	1	グループワーク、グループ・ディスカッション、ディベート	△	○	◎	○
キャリアのための日本語	就職対策をにらんだ国語力の強化を図る	日本語表現に関する幅広い知識を身につけ、書記言語で状況に応じた表現ができることをねらいとする。社会ではあらゆる場面で、ふさわしい形式・文体の文章を作成することが要求される。本講義では、大学生活や就職活動・社会生活で使える実用的な文章表現を、その形式と表現の両方から実践的に身に付けていくことを目的とする。	2	1～	後期	1	グループワーク	◎	○	○	○
キャリアのための数学(ベーシック)	SPI試験などの対策を兼ねた数学力の強化を図る	数学は、買い物、家計管理、そしてビジネスなどの生活のあらゆる場面において必要な知識です。また、企業の採用選考に取り入れられているSPI試験においても、その知識が問われるようになっています。そこで、本講義では、社会人として自立するために必要な数学の知識の習得を目指します。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	○	○	△
キャリアのための数学(スタンダード)	・仕事でも家庭でも、社会で生活していくためには、数学的な考え方を身につけておくことが大切だ。この授業では、ビジネスで必要とされる数学的思考の基礎となる数的処理を中心に演習を行う。 ・この授業では、「キャリアのための数学 I」で学ぶ各種の計算ができることを前提に、応用的な問題を速く正確に解けるようになることを目指す。計算や数学が苦手な人は、「キャリアのための数学 I」を先に受講することを推奨する。	・社会で求められている数的能力を理解できる。 ・基本的な図表の読み取りができる。 ・基礎の知識をもとに応用して活用することが出来る。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	○	○	△
キャリアのための時事問題	現在日本及び世界(ヨーロッパ以外の地域を対象)で起こっている事柄について正しく理解するとともに、物事を多面的かつ批判的に見る目を養う。特定のテーマについて自ら調べてみる能力を養う。	現在日本及び世界(ヨーロッパ以外の地域)で起こっている事柄について正しく理解するとともに、物事を多面的かつ批判的に見る目を養う。特定のテーマについて自ら課題を設定し、調べてみる能力を身につける。	2	2～	前・後期	2	なし	◎	○	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配 当 年 次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
英語会話Ⅰ	日常的な場面で自信を持って表現できるための基本的なスキルと語彙を学び、英語でコミュニケーションが図れるようになることを目標とする。特に実用的、日常的な場面で使うことのできる、リスニング、スピーキングの基礎的スキル習得を目指す。	本授業を受けることで、学生は自分自身、家族、将来といった基礎的事柄を話すことができるようになる。さらに、学生はそれぞれの設定した英語スキルのレベルに到達するようになる。	2○	1	前期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	△	△	△
英語会話Ⅱ	日常的な場面で自信を持って表現できるための基本的なスキルと語彙を学び、英語でコミュニケーションが図れるようになることを目標とする。特に実用的、日常的な場面で使うことのできる、リスニング、スピーキングの発展的スキル習得を目指す。	本授業を受けることで、学生は社会事象、アカデミックピックといった発展的事柄を話すことができるようになる。さらに、学生はそれぞれの設定した英語スキルのレベルに到達するようになる。	2○	1	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	△	△	△
英語Ⅰ	リーディング活動を主に行いながら、基礎的な英語構文力とリーディングスキルを養成することが目的である。音読の仕方、辞書の使い方などを指導し、基本的な学習のスキルを身につけて学生個人が予習・復習の際に活用できるようになることを目指す。語彙力強化を図ることはセメスターを通じて行う。	基本的な英文を、文末から訳し上げたり和訳文を書き取ったりすることによらず、文頭から意味のかたまり(sense group)を意識しながら読み、文の構造と意味が正確に読み取れるようになる。	2○	1	前期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	△	△	△
英語Ⅱ	リーディング活動を主に行いながら、発展的な英語構文力とリーディングスキルを養成することが目的である。音読の仕方、辞書の使い方などを指導し、基本的な学習のスキルを身につけて学生個人が予習・復習の際に活用できるようになることを目指す。語彙力強化を図ることはセメスターを通じて行う。	発展的な英文を、文末から訳し上げたり和訳文を書き取ったりすることによらず、文頭から意味のかたまり(sense group)を意識しながら読み、文の構造と意味が正確に読み取れるようになる。	2○	1	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	△	△	△
韓国語Ⅰ	韓国語の文字と発音を正確に身に付けるように学習する。簡単な日常表現と基礎文法を習う。自己紹介や個人的な情報について質問し、答えられる。	簡単な会話や日常表現を身につけることができる。「ハングル能力検定試験」4級レベル、「韓国語能力試験」2級レベルが到達目標である。	4	1～	前期	1	グループワーク	○	◎		
韓国語Ⅱ	韓国語の基礎文法を完成させる。特に用言の活用に重点をおいて学習する。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について質問し、答えられる。	簡単な会話や日常表現を身につけることができる。「ハングル能力検定試験」4級レベル、「韓国語能力試験」2級レベルが到達目標である。	4	1～	後期	1	グループワーク	○	◎		
中国語Ⅰ	中国語の発音を習得し、簡単なあいさつなどが話せるようになる。	ピンインを見て正確な発音ができ、SVO構文の簡単なセンテンスが使える。	4	1～	前期	1	グループワーク	○	◎		
中国語Ⅱ	中国語の基本的な語法を習得し、語彙を増やす。	補語をのぞいた基本的文法について理解する。語彙を自習して補えば中国語検定準4級が受験できるレベルに到達する。	4	1～	後期	1	グループワーク	○	◎		
インドネシア語Ⅰ	インドネシア語の発音と初歩的な文法事項を理解し、挨拶、お礼の表現等の初歩的な会話ができるようになる。インドネシア語文化圏の概略を理解する。	インドネシア語文化圏の背景を学びながら、挨拶やお礼の表現など、初歩的なコミュニケーションがアクティブに行えるようになることを目標とする。	4	1～	前期	1	グループワーク	○	◎		
インドネシア語Ⅱ	インドネシア語の初歩的な文法事項を習得し、リスニングや会話の練習を通じて初歩的な会話聞き取り理解でき、話せるようになる。	インドネシア語の初歩的な文法事項を習得し、初歩的な会話聞き取り、理解でき、話せるようになることを目標とする。インドネシア語技能検定E級レベルの力をつけ更に次のD級レベルをも視野に学習する。	4	1～	後期	1	グループワーク	○	◎		
日本語ⅠA(留学生用)	小説の読解を通して、日本語の読解力を伸ばし、テーマに関するディスカッションや感想文の作成によって、話す、書く能力も伸ばす。合わせて、日本の文化の様々な側面を知る。【留学生専用科目】	上級の読解能力をつけ、自分の感想、意見が表現できるようにする。現代日本に対する理解を深め、自分の視点を持つ。	2	1	前期	3	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎	○	○	○
日本語ⅠB(留学生用)	近年日本で就職する留学生が増えている。また、労働環境への問題意識を持つ学生も多く、自国と日本の状況に関心が持たれている。この授業では、就職や労働に関する話題について、最近のビジネス日本語の教科書、新聞、映画、ドラマなどのメディアを用いた学習を通して、知識や必要な言語能力を得、コミュニケーション能力を高める。【留学生専用科目】	社会問題に関する話題について議論する能力、敬語などの配慮が必要な場面での会話の能力、および、自分の関心を持つ問題について調べるスキルを得る。	2	1	前期	3	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎	○	○	○
日本語ⅡA(留学生用)	客観的でわかりやすい文章を作成する技法を学ぶ。アカデミックな文章を構成する表現や展開を意識して、作文を書く。【留学生専用科目】	話し言葉と書き言葉を適切に使い分けられるようになる。客観的でわかりやすい表現で、レポートなどのアカデミックなスタイルの文章が書ける。	2	1	後期	3	調査学習、グループ・ディスカッション	◎	○	○	○
日本語ⅡB(留学生用)	日本語能力試験N1に合格するために、文法力と読解力を養うことを目的とする。少人数であることが予想されるため、学生のレベル・要望を把握した上で、使用するテキスト及び問題集を決定する。【留学生専用科目】	日本語能力試験1級合格(高得点獲得)を目標とする。	2	1	後期	3	調査学習、グループ・ディスカッション	◎	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
日本語Ⅲ(留学生)	スピーチ、プレゼンテーションに必要な表現、 談話構造、スライドの作り方、引用の仕方など を学ぶ。また、それに対して、ディスカッション を行う。【留学生専用科目】	適切なスタイルでわかりやすい発表ができる。身 近な事柄や興味のある事柄、社会問題などにつ いて、自分の考えを述べ、討論ができる。	2	2	前期	4	プレゼンテーション、ディス カッション	○	○	○	◎
日本語Ⅳ(留学生用)	以下の課題を通して、適切なスタイルでの会話 の能力を高める。 1. 使用頻度の高い場面、機能の自然な会話を 聞く。 2. ロールプレイを通して、運用力を高める。 また、後半は日本語でのプレゼンテーションの 方法も学ぶ。【留学生専用科目】	いろいろな位相の話し方で談話を構成できるよ うにする。アカデミックなスタイルのプレゼンテ ーションのスタイルを知る。	2	2	後期	4	グループワーク、プレゼン テーション	○	○	○	◎
日本語Ⅴ(留学生用)	日本の小説や評論を読み、日本語や日本文 化、日本の社会に対する理解を深める。【留 学生専用科目】	・日本語で書かれた小説や評論を読み、その内 容や筆者の意見や考えが理解できるようにな る。 ・小説や評論に対する感想や意見・考えを、日 本語で表現できるようになる。 ・小説や評論に出てくる漢字が読めるようになる。	2	2	前期	4	プレゼンテーション	○	○	○	◎
日本語Ⅵ(留学生用)	新聞や小説などを通して、読解力をつけること を目的とする。 漢字の学習に重点を置く。【留学生専用科目】	日本語能力試験1級合格を目標とする。	2	2	後期	4	調査学習	○	○	○	◎
日本語Ⅶ(留学生用)	評論や新聞などの生の日本語を読解し、それ に対する自分の考えを自然な日本語で書いたり 、述べたりできるように、語彙を増やしたり、表 現を増やしたりすることを目的とする。また、今 の日本で起こっている出来事を知り、日本に対 する理解を深め、それに対して日本語で意見 が述べられ、日本人と議論ができるようになるこ とを目的とする。【留学生専用科目】	評論やニュース、新聞で使用される日本語の語 彙・表現を習得する。自然な日本語で文章を書 いたり、議論をしたりできるようになる。日本の社 会、文化、風習に関する理解を深める。	2	2	前期	4	グループ・ディスカッション、プ レゼンテーション	○	○	○	◎
日本語Ⅷ(留学生用)	・日本の社会や文化について、自分の関心や 興味があることを取り上げ、その内容を理解し、 自分の意見や考えを根拠とともにまとめること ができる。まとめたことを口頭で発表できるよ うなることを目的とする。 ・日本語の運用力を高めると同時に、日本の社 会や文化への理解を深めることを目的とする。 ・必要に応じて、インタビューをして結果をま とめたり、文献やwebから必要な情報を探したり できるようなことを目的とする。【留学生専用 科目】	日本語の資料やインターネット等から必要な情報 を探し出すことができる。 アンケート調査やイン タビューを実施し、結果をまとめて、データを示し ながら、簡単なプレゼンができるようになる。調べ た内容に対する自分の意見や考えを適切な日 本語でまとめることができる。 クラスメートの発表 に対して質問したり、またその質問に答えること ができる。 日本の社会、文化に対する理解を深 め、自分の国やクラスメートの国の文化との相違 点や共通点を理解し、それぞれを尊重することが できる。	2	2	後期	4	グループ・ディスカッション、プ レゼンテーション、インタ ビュー	○	○	○	◎
情報とコンピュータⅠ	大学のコンピュータシステムの利用方法を理解 したうえで、ファイル・フォルダの管理、文書作 成、レポート作成、表計算、グラフ作成、発表 資料作成など、大学での学習に必要なコン ピュータスキルを学ぶ。また、大学での研究レ ポートの特徴と作成の流れ、文章執筆のポイン トを理解し、コンピュータスキルを応用して具体 的なレポートと発表資料を作成します。さらに、 セキュリティと情報モラルの基礎を学ぶ。	・日常的にタイピングを繰り返し練習することで、 パソコンのキーボードを用いて5分間で300字以 上入力できる ・宛先(TO,CC,BCC)や署名、添付ファイルなど のメールの基本機能を目的に応じて適切に設定 したメールを送ることができる ・指定された様式に従って、ワープロソフトで文書 のレイアウトや書式を整えることができる ・表計算ソフトを使って、データの内容に応じた 適切なグラフの種類を選択し、グラフタイトルや 凡例などを設定した見やすいグラフを作成できる ・プレゼンテーション資料作成ソフトを使って、複 数枚のスライドから成る発表資料を作成できる ・アプリケーションソフトで使い方が分からない場 合に、自分自身やグループメンバーと操作方法 等を調べて解決することができる	1○	1	前期	1	なし	○	○	○	○
情報とコンピュータⅡ	社会全般の情報化が進み、道具であるパソコン がより便利に使いやすく進歩していく中で、 使い手である我々には、それらに関する知識 だけでなく、情報そのものを使いこなすことが 求められている。本講義では、社会で求められ ている情報活用の基礎力を体系化し、どうやっ て効果的に情報を活用するかを学習する。	・収集した情報の性質が、情報源や収集方法に よって異なることを具体例を用いて説明できる ・収集したデータを整理し、他のデータと比較す るなどして、発見したデータの特徴について説明 できる ・伝えたい情報やデータの性質に応じて、図解 化やグラフ化し相手が理解しやすい表現をする ことができる ・読み手が理解しやすいように、作成する文書や 資料のタイトルや見出しのフォントや、ページレ アウトを工夫することができる ・自身の意見を聞き手に納得してもらうために、 データや視覚表現を活用してスライド資料を作成 し、発表をすることができる ・著作権や肖像権、個人情報保護、トラブル防止 などの観点から、普段の情報の扱い方の適切性 を判断できる	1○	1	後期	1	なし	○	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
コンピュータと社会	コンピュータの出現による社会への影響について学ぶ	いまやインターネットは私たちの生活にとって欠かせないものとなりました。本講義ではそのインターネットの仕組みや歴史を理解し、インターネットの正しい活用法を身につけることを目的とします。	2	2～	後期	2	なし	○	○	○	○
(情報倫理とセキュリティ)	現代社会において守るべき情報操作における規則や心掛けについて学ぶ	講義形式で、パソコンやインターネットを使う際に、自分自身の安全を守るための必要なパソコンの脆弱性・ウイルス・ネット詐欺等の知識を学びます。通信内容およびパソコンに保存したデータや作業中の画面を盗み見られる可能性や削除したデータが復元される可能性などがあることを理解し、パスワードの作成方法、暗号化の方法とその必要性を学びます。	2	2～	前期	2	なし	○	○	○	○
情報メディア実習	photoshop、Illustratorによる素材作成技術を習得する	フォトショップやイラストレーター、よく聞くけどどんなソフトかわからない。あるいは、興味はあるものの使うきっかけがない。そんなグラフィックソフト初心者には、Adobe社のIllustrator及びPhotoshopを使用して、ドローイングやフォトタッチの基礎を学習していきます。	1	2～	前期	2	なし	○	○	○	○
(情報メディア実習Ⅱ)	WEBコンテンツ作成技術を習得する	毎日のように目にするWebサイトや携帯画面には、動きのある物が多く取り入れられています。テンプレートを用いて、WEBサイトを作成し、基礎的なHTML言語を学習します。	1	2～	後期	2	なし	○	○	○	○
ビジネス情報実習	Excelによるデータ処理等実用技術を習得する	ワークシートへ効率的にデータを入力し、見栄えの良い表に編集できる。 (表示形式・フォントの設定・文字配置・罫線・書式の複写など) ページ設定や便利な印刷設定ができる。 (印刷タイトル・ヘッダー/フッター・印刷範囲など) セル参照を認識しつつ、ビジネスで使われる四則演算を使用した計算式やさまざまな関数を使用することができる。 (数学/三角関数・統計関数・日付/時刻関数・論理関数・文字列操作関数・検索/行列関数) 関数をネストすることで、複雑な計算式を作成することができる。 さまざまな書式を使用することで、正確で効率的な表を作成することができる。 (スタイル・条件付き書式・入力規則・コメント) 効果的なグラフを作成し、グラフ要素を編集し、複合グラフを作成・編集することができる。 (棒グラフ・円グラフ・グラフタイトルや値軸ラベルの追加・グラフの種類の変更・グラフ要素の書式設定・グラフの印刷など) データを見やすく並べ替えたり、目的に応じて抽出するなどのデータベース機能を活用することができる。 (テーブルの作成と書式設定・並べ替え・オートフィルター) 複数シートを効率的に扱うことができ、シートを管理、データを保護することができる。 (シートのコピーと移動・シートの挿入と削除・作業グループ・3-D集計・シートやセルの保護など) ピボットテーブルを作成し編集することによって、	1	2～	前期	2	なし	○	○	○	
手話コミュニケーション	聴覚障害者サポートの為の手話技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> ・耳のしくみを学ぶことを通して聴覚障害を理解する。 ・音声言語と手話言語の違いを理解する ・ろう教育の歴史を学ぶことにより聴覚障害者にとっての言語とは何かを考える ・聴覚障害者の生活や経験を通して、耳が聞こえる人の考え方(聴文化)と聞こえない人の考え方(ろう文化)の違いを知り、真のバリアフリーについて考える ・基本的な手話の習得と会話場面を想定した演習 	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	○
ノートテイクの方法	聴覚障害者サポートの為のノートテイク技術を習得する	<p>本講座は、文章要約の演習ではありません。耳の不自由な方への支援方法のひとつである、その場で「聴いてまとめて書いて伝える」要約筆記の演習です。要約筆記の技術を習得し、必要とする方への支援を始めるきっかけにしませんか。</p> <p>そして、要約筆記を学ぶことで、あなたの聴解力・要約力を伸ばしたり、音としてのことばと表記としての文字について学び直すことができます。また、聴覚障害者への理解を深め支援することで、あなたの世界が広がるでしょう。</p>	2	1～	前・後期	1	なし	◎	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は 必修)	配当 年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実 施について (具体的に書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創 造的思考力(実践力)
生涯スポーツの科学	現代社会において、「スポーツ」はきわめて大きく、重要な意味を持つ存在となっている。スポーツを取り巻く様々な出来事・環境・現象を通じて、問題点や課題について考察する。	スポーツを社会・文化的視点から検討することによって、スポーツに関するより深い認識を得ることを目標とする。	2	2～	前・後期	2	なし	◎		○	△
トレーニングの科学	運動・スポーツの定義付けから、トレーニング実施による個人の心身や社会に与える影響、トレーニングのこれまでの流れについて概観する。個別的な事例や社会的な課題を交えながらトレーニングの意義や意味を各自が改めて見出しながら、方法論についても総合的に理解していく。	トレーニングの方法論や科学的な根拠について基礎的な知識を身につける。また、トレーニングの意義や意味を説明できるようになり、自分自身の意見を持つことができるようになることを目的とする。	2	2～	前期	2	なし	◎		○	△
健康・スポーツ科学実習A	生涯スポーツの重要性が高まっている現在において、大学時代における「体力づくり」は、人生において大きな意味合いをもつものと思われる。本授業では、生涯スポーツを目指し、スポーツを楽しみながら体力づくりを中心とした内容を展開する。	それぞれのスポーツ種目の特性を知り、楽しくとり組むことができる。スポーツを社会・文化的視点から検討することによって、スポーツに関するより深い認識を得ることを目標とする。	1	1～	前期	1	なし		◎	○	△
健康・スポーツ科学実習B	スポーツは、健康の維持・増進のための有益な活動である。本授業では、そのスポーツ種目の特性、ルールやマナーを理解し、「からだ」を動かすことの楽しさを知るとともに、協調性と自主性を養い、生涯にわたってスポーツを継続できる能力や態度を身につけることができるようにすすめていく。	それぞれのスポーツ種目の特性を知り、楽しくとり組むことができる。	1	1～	後期	1	なし		◎	○	△
健康・スポーツ科学実習C	生涯スポーツの重要性が高まっている現在において、大学時代における「体力づくり」は、人生において大きな意味合いをもつものと思われる。本授業では、生涯スポーツを目指し、スポーツを楽しみながら体力づくりを中心とした内容を展開する。	それぞれのスポーツ種目の特性を知り、楽しくとり組むことができる。	1	1～	前期	1	なし		◎	○	△
健康・スポーツ科学実習D	スポーツは、健康の維持・増進のための有益な活動である。本授業では、そのスポーツ種目の特性、ルールやマナーを理解し、「からだ」を動かすことの楽しさを知るとともに、協調性と自主性を養い、生涯にわたってスポーツを継続できる能力や態度を身につけることができるようにすすめていく。	それぞれのスポーツ種目の特性を知り、楽しくとり組むことができる。	1	1～	後期	1	なし		◎	○	△